

主の晩餐

マルコによる福音 14:12-16、22-26

除酵祭の第一日、すなわち過越の小羊を屠る日、弟子たちがイエスに、「過越の食事をなさるのに、どこへ行って用意いたしましょうか」と言った。そこで、イエスは次のように言って、二人の弟子を使いに出された。「都へ行きなさい。すると、水がめを運んでいる男に出会う。その人について行きなさい。その人が入って行く家の主人にはこう言いなさい。『先生が、「弟子たちと一緒に過越の食事をするわたしの部屋はどこか」と言っています。』すると、席が整って用意のできた二階の広間を見せてくれるから、そこにわたしたちのために準備をしておきなさい。」弟子たちは出かけて都に行ってみると、イエスが言われたとおりだったので、過越の食事を準備した。一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らにお渡しになった。彼らは皆その杯から飲んだ。そして、イエスは言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。はっきりしておく。神の国で新たに飲むその日まで、ぶどうの実から作ったものを飲むことはもう決してあるまい。」一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。

説教

イエスはふたたび来られます。

いつものとおりに礼拝がすすむならば、この説教のあとお祈りをして使徒信条を唱えます。そのときにイエスの再臨についての信条、キリスト教徒が信じている内容を告白します。再臨と審判を告白する内容です。ところで、イエスの再臨がもし今日明日にでもあるとしたら…。

わたしたちはどのようにしてイエス再臨を知ることになるのでしょうか。

すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラツパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることとなります。Iテサ 4:16

パウロはこのように説明していますが、わたしは携帯電話が鳴り出すのではないかと考えています。地震速報みたいにね。そうすると世界にいる多くの人がきづくでしょ。そしてそのあとはテレビをつけて実況中継を見るのではないかとおもっています。でもこれもちょっとへんです。まあ、みなさん自由に、場所は、時間は、何曜日になどなど、それぞれに楽しみながら想像してみてください。

さて、きょうは制定のことばの箇所が取り上げられています。

イエスは受難を受け、復活し、聖霊を送る約束をして昇天しました。それだけではなく、きょうのテキストにあるように過越しの食事、いわゆる最期の晩餐の席上で聖餐式の制定のことばを教えてくださいました。わたしたちはこれをイエスの記念（思い起こすこと）として毎週礼拝のなかでおこなっています。

まったくもって誰もが思いもつかない方法で、イエスはわたしたちのもとにそっと留まってくださいます。それがパンとぶどう酒の聖別であり、信じるものにとってはこれがイエスの肉と血の臨在となっています。

機密のなかでも聖餐は特別なものです。それはキリストの遺言であると同時に、イエス・キリストが今もわたしたちのもとに留まっておられるという現実でもあります。この機密こそわたしたち一人ひとりに親しく語りかけ、五感で捉えられるやり方でわたしたちに触れてきます。きょうの聖餐は特にこのことを思いながらじっくりとやりましょう。

ところで、一生懸命に生きていたらいいことがある、こう慰められるとします、まったくそうだなあ、くよくよしないで懸命に生きようと素直に受け止める人もいるでしょう。でも、それはうそっぱちだよ、そんなきれい事ですみっこない、と反発を覚える人も少なくはないとおもいます。この世は苦しいことだらけで、これからさきも同じ、お先真っ暗だよ、身も蓋もない言い方ですがこれは真実です。これはわたしがいつていることではなく、お釈迦様も生老病死（しょうろうびょうし）生まれること、老いること、病むこと、死ぬことの四つの苦、それは人生における避けることのできない四つの苦悩だといっています。彼はそれを乗り越えるために煩惱をすてる、苦しみを捨てるとい悟りを説き、悟りへの道を弟子たちに教えました。

一方、イエスはどのようにされたか？

目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。マタイ 11:5

獄中にある洗礼者ヨハネからの使いに対してイエスはこのように答えられました。イエスが受肉したことで、この福音のゆえに苦しみは取り除かれているのです。

イエスは嘆き苦しむ人たちのかたわらに立ち、慰めてくれました。そして罪のないお方なのにわたしたちのために苦しみを負い、死んでくださった。

イエスの贖いのゆえにわたしたちは救われたのです。

わたしたちはイエスを記念し、イエスが教えてくれたやり方でパンとぶどう酒をいただき、この聖餐をとおしていまもそこに密かにいる救い主イエスを感じる事ができます。キリストの聖体について一人ひとりが想いをはせる一日となりますように。